

事業報告書

1 支援団体名	特定非営利活動法人 徐福・湿原の森づくり会	
2 事業名称	防災・薬草の里づくり講演会	
3 実施日時	平成22年5月15日	
4 実施場所	巨勢川調整池管理棟	
5 事業目的、内容及びその効果	<p>(事業実施状況・内容)*できるだけ詳細に (防災講演会)</p> <p>◇国土交通省九州地方整備局 筑後川河川事務所 佐賀庁舎 技術副所長の酒井正二郎氏より、昨年7月の金立地区を中心に起こった集中豪雨時の巨勢川調整池の役割、佐賀導水の対応について説明を受けた。</p> <p>◇また、過去の水害の記録 DVD 観賞により、土砂災害を含めた事前対応の重要性について学んだ。</p> <p>◇防災士である徐福・湿原の森づくり会の藤原千房により、佐賀市洪水ハザードマップによる、佐賀市北部地域の水害危険地域の把握と、水害時の具体的対応について説明を行った。</p> <p>◇薬草の里づくり講演会については、講師を予定していた「阿蘇薬草園ハーブの里」名誉会長の井沢敏氏が、急に体調をくずされた為、急きょ「遺跡講演会」に切り替え実施した。</p> <p>(遺跡講演会)</p> <p>◇佐賀市文化振興課 西田巖氏より、巨勢川調整池で発見された「東名遺跡」の貝塚で発掘された貝の種類をもとに、7000年前の縄文人が、すでに九州各地との交流があったことなどについて説明を受けた。</p> <p>(事業実施効果)</p> <p>◇防災講演会では昨年7月の集中豪雨での巨勢川調整池の具体的役割を再認識できた。</p> <p>◇DVD 観賞では過去の水害の実例を実感し、水害時の事前対策の重要性を認識できた。</p> <p>◇佐賀市洪水ハザードマップでは、居住地の地形と非難所の確認、水害時の具体的な行動について認識を深めた。</p> <p>◇遺跡講演会では、東名遺跡縄文貝塚で発掘された貝が、当時の人たちの生活を推察する貴重な資料であることが分かった。</p>	
6 参加内訳	総人数	83名
	(1) 主催者参加	6名
	(2) 日本人参加 ((1)を除く)	77名
	(3) 外国人参加 ((1)を除く)	0名
7 今後の方針	<p>◇今後も年2回の講演会を実施し、巨勢川調整池に関する防災の講演と東名遺跡に関する講演を入れて実施する。</p>	

状況写真（講演会看板）



状況写真（酒井氏講演状況）



状況写真（酒井氏講演観客）



状況写真（講師の酒井氏）



状況写真（遺跡講演風景）



状況写真（講師の西田氏）

